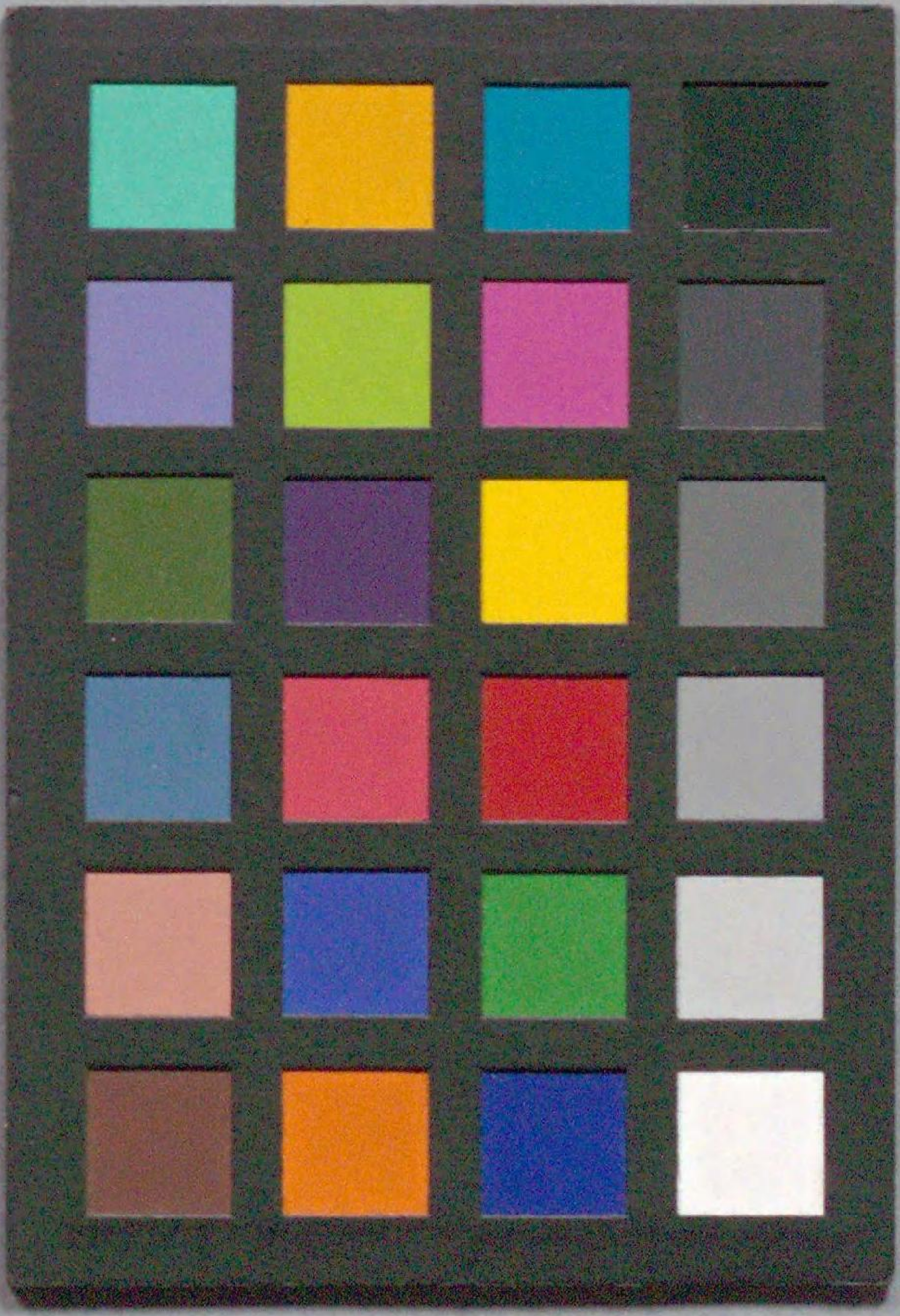




国立国会図書館 松の花 5編 208-696



ガラス使用

貞操
美談

松の花

四編

上

208
45
696

国立国会図書館 松の花 5編 208-696

ガラス使用





貞婦
於花

千代松



使者
網五郎



貞操美登利迺春第二編卷之上
美談

東都

松亭金水編次

第十九回

おろそけ心の向人処金石とも堅いとせむ。こゝ小男女の恋情の
 理を以て推へるは赤繩一衣足小童縁に雙言も支拂とある
 ことあり況やその際不かりとて。再説お雛の去年の仲秋ハ
 情宮の糸袴をて又初一人の儀と云はるがさへ人知は骨
 と焚火と焦しん。竟ちの暮さ著病とまてあるし人知は骨

人ハ何方の誰との人とも不^し知^らずねが^ら信^じの常^{じょう}侍^し小^この^こを^を極^{ごく}
切^きぎ^ぎと^とわ^わて只^{ただ}明^{あきら}ら^らず小^こオ^オヲ^ヲを^を苦^{くる}一^{いつ}め^めも^もその^{その}甲^か斐^ひあり。
然^{しか}う^う不^ふ圖^とら^らび^ひその^{その}人^{ひと}れ^れ傍^{かたわら}せ^せま^まこ^ころ^ろより^{より}あ^あり^りて^て心^{こころ}を^を更^{さら}に
優^う暈^ん華^げの^の華^はも^もち^ちえ^える^る様^{よう}一^{いつ}さ^さお^お。その^{その}翌^{あした}の^の日^ひの^の芝^{あし}床^と小^こも^も又^{また}
傷^{いた}く^く不^ふ仕^しあり^りま^ま。物^{もの}不^ふ喻^ごへ^へり^りて^てう^うな^なく^く。人^{ひと}目^めあ^あら^らむ^むの^の恥^ち
り^りく^く也^や。心^{こころ}の^のと^とけ^けて^てう^うち^ち明^{あきら}て^て啣^{くは}ん^んの^のと^と人^{ひと}ど^どの^のう^う泣^なく^く
そ^そと^との^のあ^あら^らむ^む。傍^{かたわら}迎^{むか}へ^へて^てその^{その}人^{ひと}の^の教^{おし}え^える^る中^{なか}に^にの^のあ^あら^らむ^む
ふ^ふその^{その}狂^{きやう}言^{げん}ハ^ハ又^{また}も^もや^やら^らむ^む心^{こころ}も^も空^{そら}小^こ惑^{ごつ}ひ^ひ一^{いつ}が^が。明^{あきら}止^との^の香^{かう}法^{ぽう}

一 花の四上二

一日^{いちにち}の^の果^{くわ}敢^{かん}る^るま^まの^の夏^{なつ}の^の間^まや^や早^{はや}く^くも^も芝^{あし}床^との^のあ^あら^らむ^む
陸^{りく}名^なと^と人^{ひと}を^を性^{じやう}め^めり^り。あ^あの^の一^{いつ}群^{ぐん}ハ^ハ巫^ま小^こも^も帰^{かへ}ら^らむ^む。茶^{ちや}や^や食^{じき}
て^て夕^{ゆふ}胸^{むね}と^と出^でま^ませ^せ。ま^まこ^ころ^ろあ^あて^ても^もか^か機^{はた}等^らハ^ハ酒^{さけ}の^のう^うん^んま^まと^とつ^つけ
ま^ます^す不^ふど^ど不^ふ四^し邊^{へん}ハ^ハ寂^{じやく}寥^{りやう}ある^るに^にま^まて^て。ま^まこ^この^の二^に階^{かい}ハ^ハ銀^{ぎん}燭^{そく}の^の光^{ひかり}
を^をま^まま^まと^とく^く照^てら^らる^る。旅^{りよ}の^のあ^あら^らむ^むを^をえ^える^るか^か雛^{ひな}ハ^ハ夫^{つま}の^の
間^まも^もか^かの^の人^{ひと}の^の教^{おし}え^える^るを^をホ^ほ一^{いつ}と^と不^ふ時^{とき}を^を知^しら^らせ^せの^の拍^{ひやく}子^し木^ぼ
也^や。ま^ま成^{なり}刻^{くわく}う^うと^とう^う胸^{むね}と^とあ^あら^らむ^むの^のあ^あら^らむ^む。か^かん^ん
人^{ひと}ハ^ハこ^ころ^ろを^を突^つ思^しひ^ひの^の他^たハ^ハて^てま^まま^まら^らる^る。ま^まご^ご會^あひ^ひま^まが^がか

案トざらう。サアくか五小のーませう。か嬢さんかぢの換
 り。モウ傾小ぢやさんも下へ棄つてさうもんと。帯ああ連ひ
 の巾あまは。廁へ紐や去もあり。あひ設けしするあぢの
 か離はとまぞあの人のかとまああうんと。ちうつあ
 か久バ今まぢの。困まう胸巾忽休小塞ぎてま死巾まあが
 らん。か勝はとまええ傍へう。うへ何ごまごどらう。於ぢ
 ち。昨夜も今日へうけて。例ああいよの心元氣で謀に
 うと一くあひまうが。まか塞ぎたばんのエ。かん不困つこ
 りのどらう。誰ぞも後あつたか巾を拵きて呉るさひヨ。か食
 菜いら不有う。子尾はあがやう。一ヲヤまもあ不あ心
 の心どまもまうエ。さがつうあんが何ぞまも上うのあま
 むの巾も有いゝあんどらうとまさん。一止ま移か正ぢやア
 ぢいません。今ま巾もどらうとまると急おあささるあさるア
 ありまぢのサトその内さ巾を拵くま。かうのよういけ
 丸茶と飲せるまどまをかど不。元来まの病あけらねばあ
 とくつうのあるとま。か離は人のままが心づきてままらう



5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50

生中迎く傍劇て昨夜一夜と今日一日在ける故にいとあぢき
おひ跡増り。その故よりいさるねどもおまめ結城屋の客と
て女在まゝんさゆあつ彼家へ住まひまごゆ逢まひん
てごご拵く。まごゆかえ彼と女児心小趣念思案を
あせいつち猶眼はさえてえゆ麻らまひ類子小渾成を
うへ。吐息ゆつ忍ぶある。例か傍ハ遠小跋巡てこの一間小
するまご今宵ゆま地小麻らまご茶座の二階の一杯拵
どんごゆあつご一時なり。寝懸かて眼を覚ま小。咽のい

まりの花四十四

乾く小より。矢倉小起出権子ある温湯をまご二三杯
うちとて飲手ある。まご埋火とさき發し。烟茶二三が吞る
お雛のまごうち祝する小。牙を動うて溜息を密と吻る此
びえしる兼て心小察しる。能ひあつととあつ。脱て傍
おあさとり。まごの着物を圍衣の上へ内うけて彼処へ
お環さんまごお寝ません。まごお心慰いのでごごのまご
お悪うア湯ゆ沸てまご。例の四九茶ゆあげまをうすト
おお雛ハ行時とて。枕を拵げま地をうすて。マヤ乳母



おつてあるおまアあいつと申すと申す振入りとて跡のみさし横の
珍まのありうまえ在けま。かうのいおも夢を惚めて
史ハ 此作もあいついへても供とて私外の勿論まの
みくも知らあいつといふまございもせんが只あまのいのか胸に
うちま。どうも合意が参りません。予お嬢さんお臆らうら。
序どうううまま。駕りりとかは控ませ。まの四家お天おも
地不も。うらとが一人のおお林史おこそお取四振が。お大切に
控りて。お嬢のみあう何故の出入用がうらうともま。
振ひるをあらうと。おん控せおまて上といふと常々うらも
お作ま。おしと長いうら。の四病氣をお案ト控は
此頃私お作お。おの口うら云々いふ。モッお雛お十七
ごう。何れもてお児共とて。おつて居るのいおのる麻塚
お選てお播せとて。能助分の年拾好名の付らおね
おの痛氣お。万一志とらうら明て。おといふお物お
うら。記つてうらもあまのい。お見おうら。お親おの陣々
お申さおは云おせま。お万を波塚お推さの時うら

振ひるをあらうと。おん控せおまて上といふと常々うらも
お作ま。おしと長いうら。の四病氣をお案ト控は
此頃私お作お。おの口うら云々いふ。モッお雛お十七
ごう。何れもてお児共とて。おつて居るのいおのる麻塚
お選てお播せとて。能助分の年拾好名の付らおね
おの痛氣お。万一志とらうら明て。おといふお物お
うら。記つてうらもあまのい。お見おうら。お親おの陣々
お申さおは云おせま。お万を波塚お推さの時うら



さへも安堵させ。あゝあゝの口敷いも惚へま。まゝく史心分り進
と。変へ他の者々ぞ人愛小もあゝせあさう分と口堅め
て外所へ白け。か離い今さら初りさ。漢よりうゑの本と中
君今、うたのり人通を。我ひが惚りぶの振あ。悔しうんと
さぬく小あひまのいせの悔し。さし。うらめさもとれた交せん。あ
東やとをを小あを多くとりの支少もて森中やらば小居
たりけり。

第二十四回

かくてその翌の朝か勝の雛が母親ある。おまが飛間へ到り
侍の人ををぎけさせ。昨夜か雛が実情を測くおて吹乳
せ。繻のよと落中やく。感小培まの母親中。作めて喫てうあ
寝き果しゆつぬ彼病氣着のち振のとあゝんを。推量
あゝん小類ひ多く。まご子若ちやとかり人生小。何好しうた振
あゝん生心の分と中その答をや十七強似つぬとを中あいが。
先の武家での縉紳でも。執當さきとて今の男の何とゆつ
ば縁城屋小。食容ある浮浪人新詮先へ遣とゆせはは及

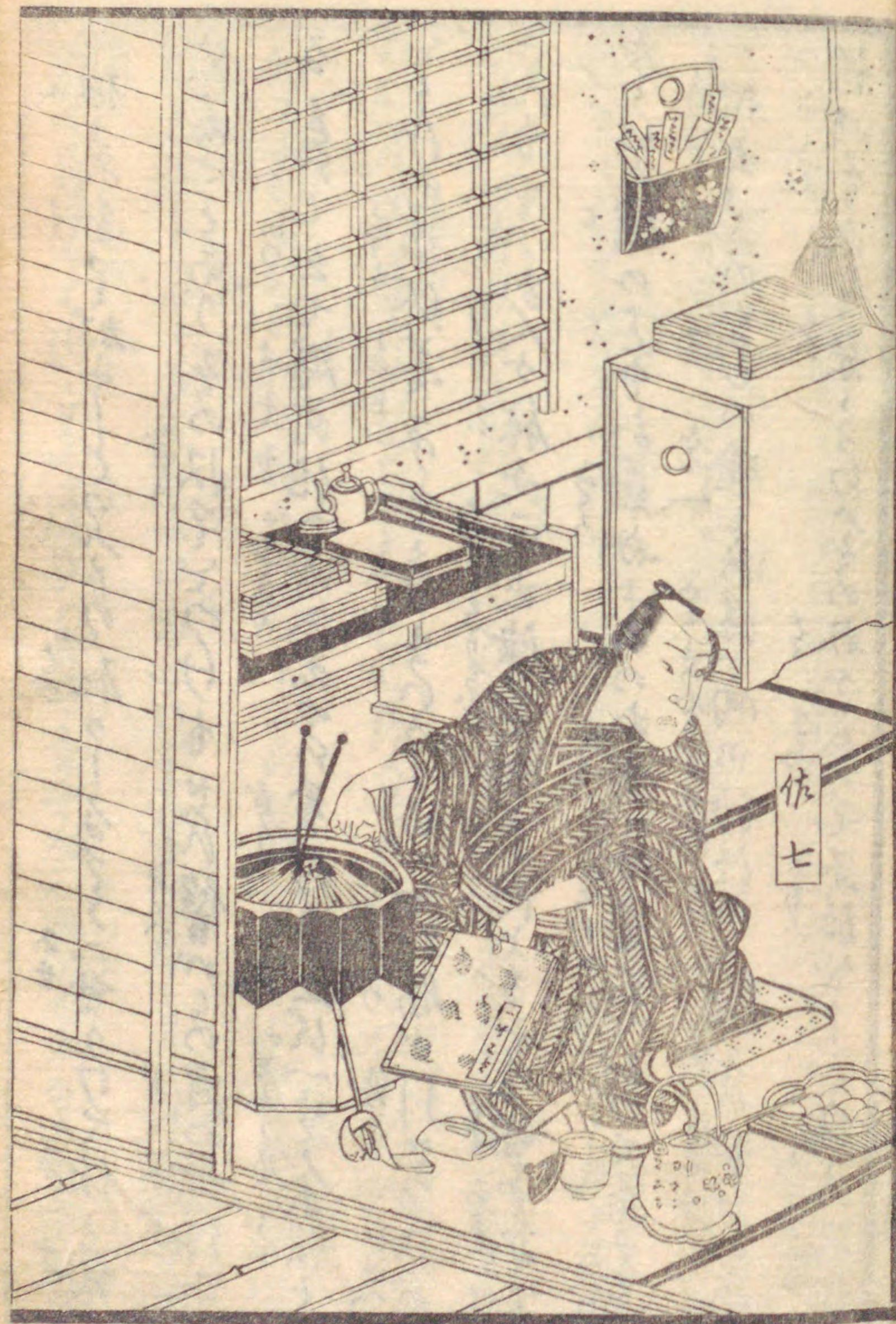


小由。障る不ど小由あらう。と。実小由。一若。若。想。若。の。所。
 由。篤。う。と。能。心。動。無。托。存。て。且。助。ま。な。と。由。心。お。終。り。ま。さ。季。
 志。い。その。動。静。を。吹。う。と。思。い。下。あ。ら。ぶ。丈。助。ど。の。な。り。お。様。ど。の。
 あり。見。い。え。未。来。を。う。う。思。と。後。て。存。人。く。小。由。此。方。の。お。
 悪い。う。小。波。す。み。で。い。ご。い。ま。せん。と。思。ふ。陸。家。く。包。こ。か。く。
 の。心。お。も。由。意。改。て。ま。方。の。い。人。の。い。念。道。理。ま。づ。老。由。角。由。
 その。心。お。も。且。助。小。お。様。一。仕。て。え。ま。う。と。ま。より。お。も。い。良。人。か。
 る。方。お。も。の。小。う。ち。お。も。い。箇。様。と。一。竹。と。落。里。お。勝。が。今。の。

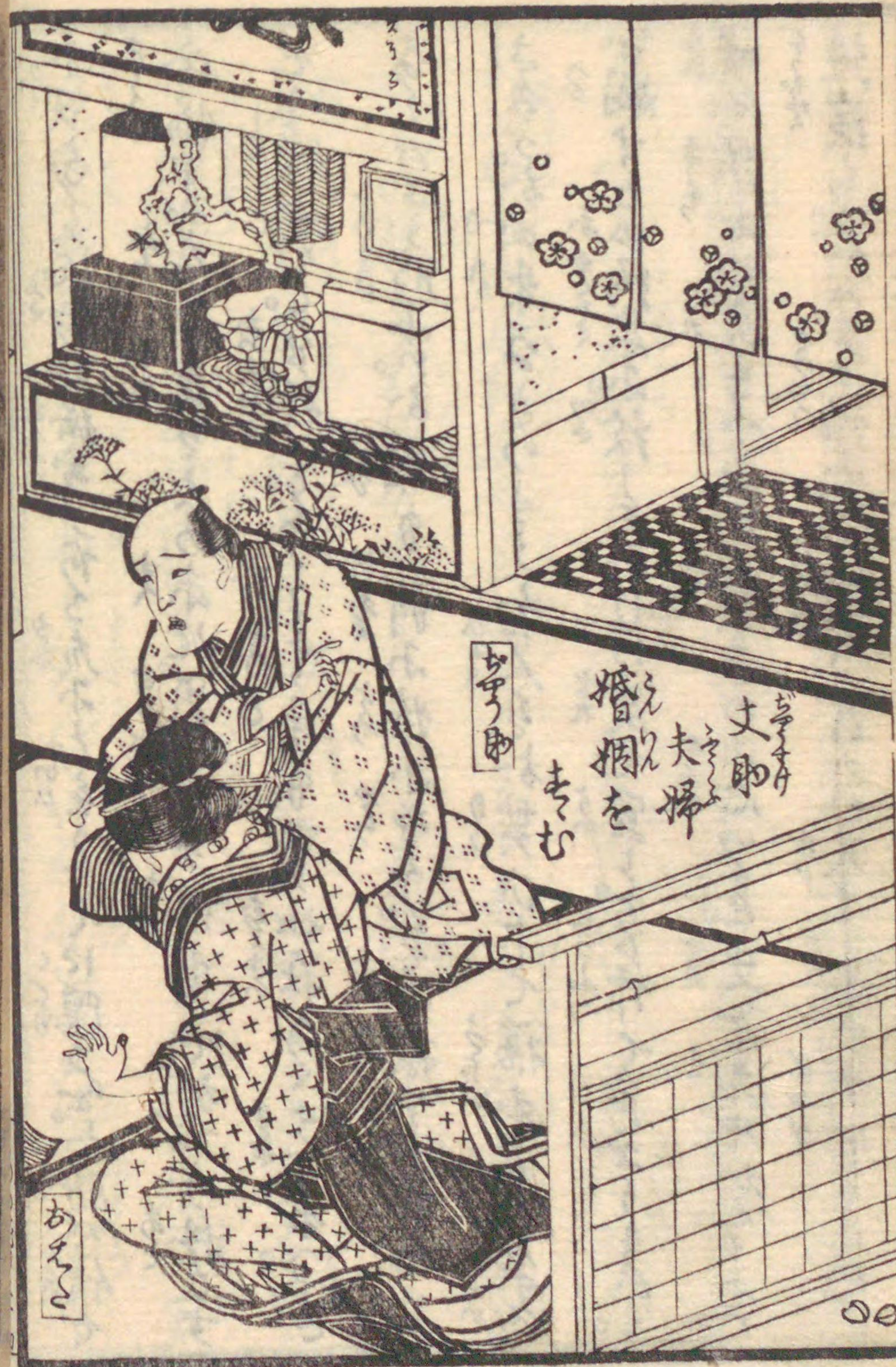
只。後。ま。え。為。た。く。ま。母。六。万。石。由。の。も。ま。り。呆。と。て。こ。を。由。た。く。
 渾。家。の。所。と。う。ち。成。了。ん。名。案。の。辨。也。在。け。が。胸。を。定。め。後。
 の。人。を。武。家。と。遠。つ。て。町。人。へ。ま。ま。十。兩。万。兩。の。名。限。と。い。ふ。
 人。字。あ。ら。ま。い。勿。論。詔。く。先。祖。の。血。脈。保。つ。て。致。ふ。者。い。な。け。ま。い。
 一。や。二。人。の。女。の。こ。を。他。の。嫁。子。小。や。う。と。い。ふ。は。あ。ら。う。と。その。内。來。
 へ。若。鬼。が。出。来。さ。う。此。方。又。貫。ひ。その。鬼。小。嗣。若。や。矢。張。血。脈。保。つ。て。
 と。あ。り。嫁。小。や。う。の。由。大。ま。く。ま。ま。六。月。一。と。若。その。人。の。初。米。行。い。
 家。へ。う。ら。ぶ。その。い。の。嫁。と。い。や。う。分。の。と。ま。地。の。規。定。を。よ。く。

うやう謀らるるもの。と伝用せさるる大助が。とさうく佐七
さぬ。か。兼ぢひふも視がある。主婦拵つてお中すの。不何で。何ごさ
つまませう。此兼ぢあるが。今うう垂不回報とす。と結納う。
お引移りの日限まで。五先やうと。やまろ。張皮して。浮こ
なるもの。候より。お四番あさきと。ま。西月で。いへ。候ある。
と。及へ。佐七ハ。形を改め。さ。お。く。あ。ひ。う。う。ぬ。り。う。り。い。と。ん。後
と。此。深。切。る。その。お。世。活。い。う。不。由。盡。時。ハ。樹。う。落。る。後。月。あ
の。才。の上。也。名。つ。こ。り。不。舟。と。飲。ん。で。此。核。抄。と。い。は。れ。若。お。う。

小ツあ。と。い。ひ。二ツの。秘。愛。が。あ。り。る。友。不。と。い。ふ。に。は。隠。多。を。お。勝。の。傍。で
全。捕。り。大。う。と。ま。ま。と。お。の。末。に。此。勅。書。が。許。中。て。お。取。り。控。を
その。時。あ。い。と。は。作。と。あ。う。さ。う。子。由。モ。ウ。如。在。る。く。先。さ。な。へ。中
あ。う。が。子。時。あ。い。お。離。由。一。所。不。嫁。小。き。う。その。撫。つ。と。あ。い。お。子
さ。ぬ。が。お。出。来。る。さ。の。う。う。お。一。人。ち。お。貫。ひ。中。て。振。書。屋。の。家。名
と。翻。せ。る。此。納。束。小。紋。し。て。お。け。が。使。で。置。と。は。作。て。ご。ご。り。ま。い。と。
び。て。佐。七。の。使。ま。ま。お。あ。が。この。心。の。是。使。と。免。や。か。く。中。の。
強。控。ら。し。い。が。さ。う。他。不。由。秘。愛。と。い。ひ。の。文。字。系。の。便。宜。由。お。れ。が。



佐七



あさこ

お茶屋
 旦那様
 夫婦
 婿を
 去む

あさこ

oe



心根こころねを分わかるがごとく入いりぬぬく二世ふせをまりて依よと納な
束たまはるとあり。その収こむとつけゆせせん。譬たとひばこの身みの傍そば侍さむらい小
みまがとてて降くだり他ほかへ墮おち入いるは義ぎ理りゆ立たび一生いっしやう余あ恨んと
とつけ。非あ終ゆう善ぜんもゆあるまのうと。人ひとをお勝かちが引ひくはあ
さんゆ生なアお人ひとが能あたり。正ただ直ち律りつ義ぎゆ事ことによも。その文ぶんを系けいと
やうい人ひと様さまのこゆ。お慈あま母ははさんのお懺あましを妻つまあて知しつて居ゐりま
が。程ほどゆしとのおの脱だつその後のち一向いっやう四し沙さ法ぽうゆせん。その翌あつひ日ひの未ま
つ下くだげん。お桑くわいとりの人ひとその母ははかあつて不法ふぽうを中ちゆうとの大おほ胆たん邪じゃ
さあのお身みへ送おく入いる。史しゆゆ者ものを身みに口くち初はつ志し。予よとく積つつて居ゐる

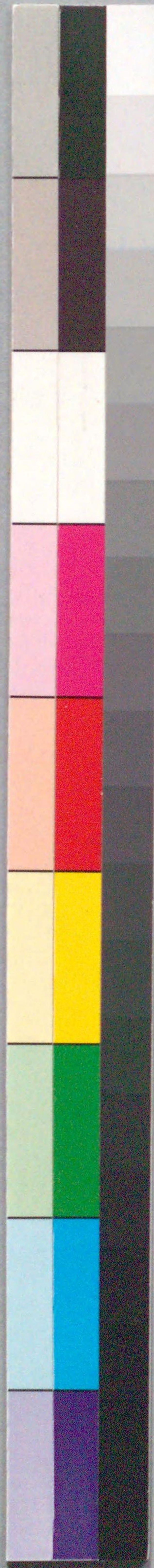
表あまし。表あ城じやうの人ひと小こ身みを様さまと見みる。そを身みへ海うみぬと養やしやうはを
祝いわひを捧たげ進すすむを後のちある。生あるその足あを運うんん救きうとと。そを身みの
お身みへいさるけは。まどい人ひと実まゆ居ゐるを。史し小こ能あたりて身みを
のさ身みへ大おほ事じにおかすゆあるまて行いく。その翌あつひ日ひの未ま刻こく以いて
何なにとゆい表あに捧たげある。初はつ中ちゆうての惣そういけほど。そを身みの十分じふぶん
自みづか己みづか放はなし。名ない女にやの中ちゆう女にやの方かたた。まを身みを身みより能あたり人ひと。他ほかの
有ありその人ひとと遊あそぶ違ちがひとるまを。三さん歳さい児に小こゆ志しとを

208
15
696

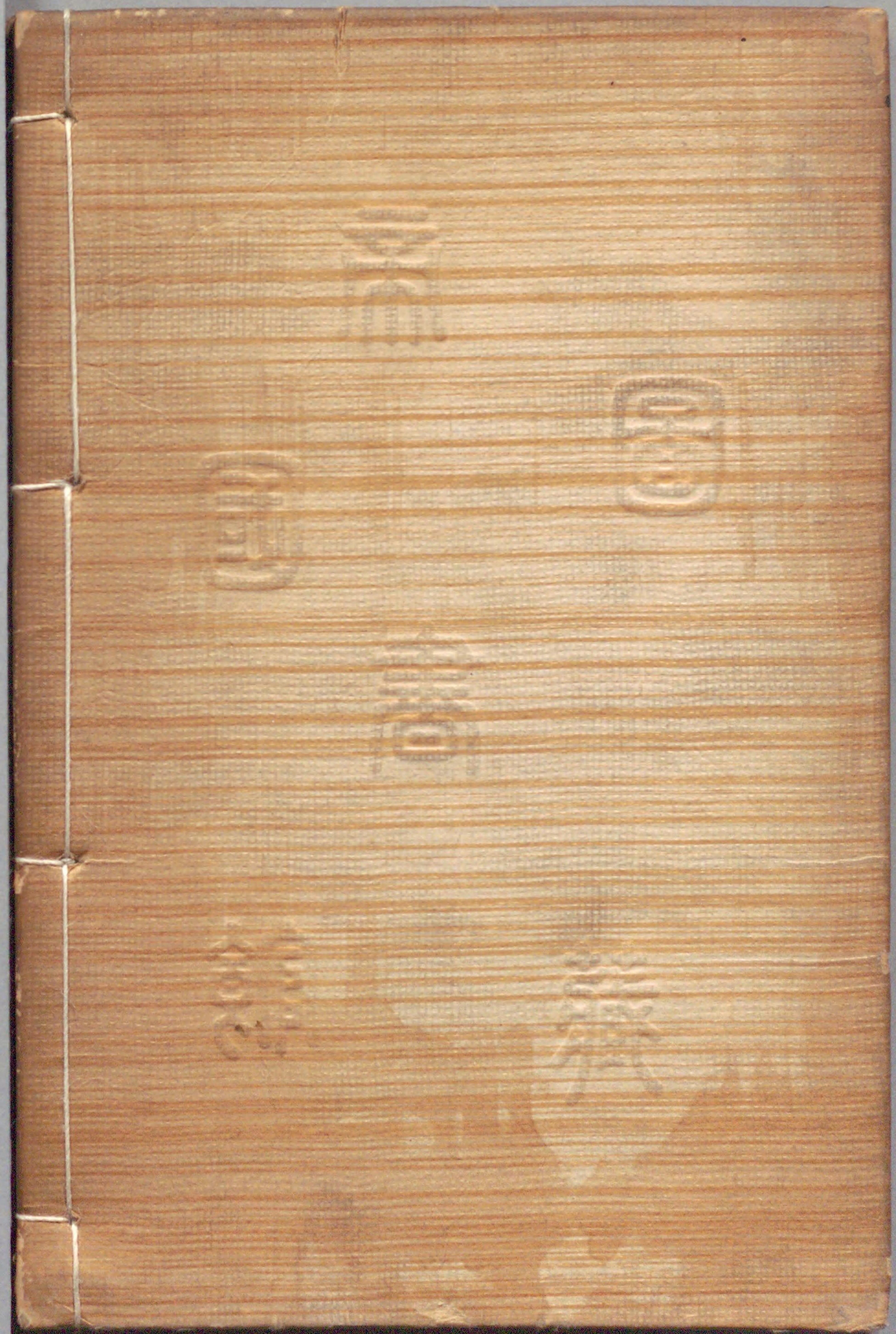
国立国会図書館 松の花 5編 208-696

ガラス使用

5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100



国立国会図書館 松の花 5編 208-696



ガラス使用

